

D16 裏紙

D01 表紙

真法会研究室  
研究室案内2026

製作  
真法会研究室

inpoukai

## 心と力のある法曹になるために

### 一真法会の強み一

#### 学生時代に法律家の基礎を鍛えましょう

法曹の道を目指している皆さんの高い志にまずは敬意を表します。法曹の世界は決して楽なものではありませんが、達成感に満ちた人生を送れると思います。そして、学生時代は皆さんが心と力のある法曹として歩んでいくために必要な基礎を養うには重要な時期なのです。

そのために何をすべきでしょう。もちろん、単なる試験対策ではない、法律の考え方を基礎から学ぶことが重要です。

しかし、さらに重要なことは、ゆるぎない向上心を持って、物事を熟考する姿勢と、試練を乗り越える胆力とを鍛えることです。将来良き法律家として仕事をするためには、これらが極めて重要なのです。

もちろん、こうした内面の強さは、一朝一夕に鍛えられるものではありませんし、自分一人の力で身につくものでもありません。多くの人たちと交流し、議論し、さらに自分の内面に立ち返って熟慮する、といった過程を繰り返すことにより、少しずつ、しかし着実に、足腰の強い実力として醸成されていくのです。また、そのような交流で培われた室員相互の関係は将来の重要な財産にもなっています。

#### 司法試験合格は目標ではありません

現在、司法試験受験までの期間短縮を目的とした一貫教育コースを始めとした新しい法曹養成制度が実施されています。学部が年次が上がっていくにつれ目の試験に気を取られることもあると思います。しかし司法試験合格は長い法律家人生にとっては単なる手段であり、スタートにすぎません。その後法律家としてどのように活躍できるかが重要なのです。

多くの真法会員は、学生時代に鍛錬を繰り返すことで、心と力のある法曹となって、社会の各方面で活躍してきました。「急がば回れ」というのはやはり真実なのです。

真法会の強みは、まず充実した学習環境、学習制度にあります。室員は学年を越え、日夜議論しながら法律学習に励みます。さらに、司法試験合格者や法科大学院合格者による後輩指導が年間カリキュラムに沿って実施されています。このカリキュラムは、年々先輩弁護士たちによって都度ブラッシュアップされています。かつ着実な社会的存在として大成できるよう、今の時間を大切に過ごすことが肝要です。

このような環境で、法律家としての足腰を十分に鍛えることこそ、その後の法曹としての活躍の基礎になると言えます。近年の毎年の実績から明らかのように、真法会室員は法律家としての十分な基礎の実力をつけ、試験合格テクニックの習得に右往左往することなく、司法試験に合格して法曹の世界に羽ばたいていっています。

#### 真法会のネットワーク

真法会の充実した学習環境、研究室運営を支えるのは、室員相互間はもちろん室員と先輩会員間のつながりの深さです。年間を通じて室員相互の親睦を深めるための行事を行っています。さらには室員と先輩会員との交流を図る行事も実施しています。

例えば裁判所と検察庁の見学、弁護士事務所訪問は、先輩会員の実務家としての生の姿に触れることができる貴重な体験となります。これらを通して、室員は自身が目指す法律家像をより明確なものとし、より一層日々の勉強に磨きをかけてい



中央大学真法会理事長  
弁護士

西村光治

多摩キャンパスから茗荷谷キャンパスに移転したことにより、先輩会員との距離が物理的にも近くなり、このような交流の密度がより一層高まっています。

#### 学生主体の真法会

真法会は、今年で創立92周年を迎えた伝統ある研究室です。どの時代もこうした環境を十分に生かしてお互いに高めあっていく文化を大事にしつつ、時代に即して明るく開かれた学生主体の組織を運営してきたからこそ、全国的に知られた中央大学随一の学術研究団体であり続けています。是非とも真法会の門を叩いてみてください。

## 真法会研究室とは

私たち真法会研究室は、学研連に所属する研究室の一つです。長い歴史を持ち、今年で創立92周年を迎えます。これまで、法曹界を中心に、政財界、学界などにも多くの優秀な人材を送り出してきました。その中には、最高裁判所判事、最高検察庁次長検事、日本弁護士連合会会長など重要な役割を担った先生方もいます。私たち室員は、多くの偉大な先輩方の姿に刺激を受け、自らの志を常に高く持ち勉学に励んでいます。

現在、真法会研究室の室員は53名(女31名・男22名)です。在学は研究室にて、定席での自習学習や室員間での議論を通じて、互いに切磋琢磨して日々の学習に励んでいます。

### 2025年度司法試験合格者



11名

2025年度の司法試験では、全学研連3位の11名の合格者を輩出しました。また、直近5年間での合格者数76名という数字は、**全学研連トップ**の成績です。

### 当研究室出身の法律家

約 680 名

真法会研究室出身の法律家は現在、約680名います。そして、真法会研究室には、法律家である先生方と交流する機会が多くあり、自身の将来像についてイメージを膨らませることができ環境が整っています。

#### contents

- P1 理事長挨拶
- P2 真法会研究室とは
- P3 司法試験制度について
- P4 カリキュラムゼミ
- P5 学習環境
- P6 研究室生活
- P7-8 年間行事
- p9 合格実績
- P10 法律家からのメッセージ
- P11 経済的バックアップ
- P12 入室試験要綱
- P13-14 あとがき

# 司法試験制度

## 中央大学

中央大学では、令和2年度から新しい法曹コースが始まりました。この法曹一貫コースを利用することで法科大学院と一貫した教育を受け、学部を3年間で卒業することができます。

在学中・在学後

学部3年間で在学

法曹一貫コース

学部4年間で在学

法曹一貫コース以外

## 予備試験

司法試験予備試験は、法科大学院を修了した者と同等の学識を有するかどうかを判定する試験です。

合格者には法科大学院修了者と同じく、司法試験受験資格が付与されます。

## 法科大学院

法科大学院は、法曹に必要な学識及び能力を培うことを目的として設置されました。

3年間の未修者課程もしくは2年間の既修者課程のいずれかを修了すると、司法試験受験資格が与えられます。

※2023年から、法科大学院の最終学年で司法試験を受験可能になりました。

## 司法試験

裁判官、検察官、弁護士になる資格を得るための試験です。短答試験と、論文試験があります。

## 法律家へ

# カリキュラムゼミ

## 段階的に学べる 法律学習の強い味方

初めての法律の勉強に不安を感じている方も多いと思います。

真法会研究室では、司法試験やロースクールに合格した先輩方によるカリキュラムゼミが組み立てられ、法律を一から段階的に学び、しっかりとした実力を身につけることができます。

また、ゼミの前のアンケートによりチューターへ直接、要望を伝えることもできます。

	1年生	2年生
4月下旬～8月中旬	民法新歓ゼミ	民訴・刑訴講義ゼミ
9月(合宿)	民法論文ゼミ	民訴・刑訴論文ゼミ
9月上旬～10月下旬	憲法講義ゼミ	商法講義ゼミ
11月上旬～12月中旬	憲法論文ゼミ	商法論文ゼミ
12月下旬～3月中旬	刑法講義ゼミ	行政法講義論文ゼミ
	刑法論文ゼミ	民法・刑法・憲法答案練習ゼミ

講義ゼミ

真法会オリジナルのレジュメを使い、基礎的な知識の定着を図るゼミです。

論文ゼミ

問題演習を通じて、論文の書き方を学ぶゼミです。実際に答案を書くことで、実践力が身につきます。

答案練習ゼミ

論文を書き、先輩に添削してもらいゼミです。1対1の指導で、さらなる力を養います。

1、2年生は原則ゼミには参加してもらいますが、個人の時間割を考慮した日程でゼミを組むので、バイトやサークルとの両立もできます！



# 年間行事

## 5 新歓スポーツ大会

スポーツをしながら、  
たくさんの先輩・同期と  
交流を深めることが  
できる機会です。



## 8 裁判所見学

裁判所見学を通じて、法曹の仕事についてより具体的なイメージを持つことができました。  
裁判傍聴では、真法会OBの裁判官の方が担当している裁判を傍聴しました。裁判手続きを自分の目で見ると経験は得難いもので、人の裁きに関わることの重みをより一層実感しました。  
裁判の後には、OBの方と直接お話をする機会を設けていただき、事件の概要や争点の解説、日ごろの実務についてなどたくさんの貴重なお話を伺いました。実際に裁判を担当した方からお話を伺うことで、自身の進路についてより深く考えるきっかけになりました。  
(3年 春口肇)



## 9 夏季合宿

4泊5日の合宿を行います。ゼミ、自主学習に集中して打ち込むことができます。最終日に行う打ち上げも楽しみの一つで、室員間の交流が深まります。



## 12 忘年会



## 検察庁見学

検察庁見学は、普段、中々実感することのできない検察官の実態に迫ることができる貴重な行事です。  
まず、検察官の方から検察官の仕事について自身の実務経験を交えながら説明してくださり、非常に興味深い話を伺うことができます。  
検察官の仕事について伺った後の庁内見学では、実際の取調室や証拠物を保管する場所を見学させていただきました。初めて検察庁の雰囲気を感じた高揚感を今でも覚えています。  
最後には、刑事事件の取調べを実体験する機会を設けていただきました。室員で供述調書等を確認しながら深く思考したことは、法曹を目指すうえで高いモチベーションを得て学業に励む大きな契機になると思います。  
このような機会は強く大きなコミュニティがあるからこそ得ることができるものであり、貴重な経験を多く積むことができることは真法会の大きな魅力だと感じます。  
(2年 北康生)

## 11 創立記念式典

真法会最大の行事であり、普段会うことのできない著名なOBOGの先輩方と交流できます。



## 3 卒業生歓送会

お世話になった先輩方の門出を祝います。



## 8 ロースクールガイダンス

法科大学院に進学された先輩から各学校の紹介や進学へのアドバイス、勉強方法等を聞くことができます。



## 7 弁護士事務所訪問

実務の最前線で活躍される先輩方を訪ねるこの行事は、弁護士の仕事を肌で感じることができる、とても貴重な機会です。  
単にお話を伺うだけでなく、先生方のライフスタイルや学生時代へのアドバイスなど、人生の先輩としての温かな助言を直接いただけるのも大きな魅力。多様な分野やスタイルで活躍される先輩方の姿に触れることで、自分らしい法曹像を具体的に描きかけになり、日々の学習への大きな励みになるはず。こうした心強い縦の繋がりと、将来の自分をイメージできる環境こそ、真法会ならではの宝物だと感じています。皆さんもぜひ、この繋がりを大切にしながら、一緒に夢に向かって歩んでいきましょう。  
(2年 横屋杏佳)



R7年度新入室員たち



## 学習環境 豊かな知識を育む、豊かな環境

### 01 共同研究室

POINT



真法会研究室の扉を開くと、共同研究室があります。室員はここでわからない箇所についてお互いに議論したり、学習の息抜きとして休憩をとったりしています。

1年生から4年生まで室員間の交流を深めることができる空間です。

パソコン1台、コピー機、冷蔵庫、電子レンジなどが完備されており設備も充実しています。

### 02 中部屋

POINT



共同研究室の扉を開くと、中部屋があります。中部屋には冷暖房、加湿器、そして全部で61席ある定席には、1席につき2つのコンセントが完備されています。

真法会研究室に入室すると、1人1つ定席が与えられます。定席は快適な環境で、集中して学習に取り組むことができます。

### 03 蔵書

POINT



真法会研究室の共同研究室には、書籍や資料が所狭しと並んでいます。

室員はここから判例集や基本書を自由に閲覧し、借りることができます。

## 研究室ルール

### 01 研究室の運営

POINT

真法会研究室では、入室2年目の室員が研究室の運用を担っています。

研究室の運営を通して、法曹をはじめとする多くの先輩方と関わることによって、机の上では得られない貴重な経験をすることができ、学内にとどまらない「縦のつながり」を得られます。

法曹や企業人となった多くの先輩方が社会に出て役立ったと仰っています！



### 02 登室制度

POINT



登室集計とは室員が研究室に滞在した時間を表に記入する制度のことです。

月ごとに登室時間のランキングが発表されるため他の室員がどれだけ勉強しているかが分かり、室員の勉強のモチベーション維持に役立ちます。

### 03 共研当番

POINT

真法会研究室では、室員が順番に、朝と夕方それぞれ30分程度、研究室の掃除などを行います。これによって、快適な学習環境を確保することができ、室員全体が集中して法律の学習に打ち込むことができます。

### 04 室費

POINT

真法会研究室では、研究室の快適な環境を維持するため、月に3000円の室費がかかります。



# 合格実績

## 11名

### 2025年度司法試験合格者

#### 法科大学院合格実績

##### 私立

中央大学.....10名  
 (全免4名、半免4名)  
 慶應義塾大学.....8名  
 早稲田大学.....3名

##### 国立

東京大学... 3名  
 一橋大学... 1名

#### 宇佐美菜々(法学部法律学科卒業)

東京大学法科大学院(進学先)  
 他、  
 中央大学法科大学院(全免)  
 慶應義塾大学法科大学院  
 (法曹一貫コース利用)

## 合格!

真法会研究室に入室して一番に実感したのは、「人との繋がりの大切さ」です。真法会は、同期との横の繋がりは勿論、先輩・後輩、そしてOB・OGの方々に至るまで、非常に強固な縦の繋がりがあります。

誘惑の多い大学生活において、自身の将来像を見失わずに努力を続けるのは難しいことだと思います。しかし、同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨し、先輩方が法律の講義や論文指導を通じて親身に導いてくださる環境は、真法会の大きな強みです。私自身、法科大学院入試という壁を乗り越えられたのは、この環境に恵まれたからこそだと考えています。

また、この真法会の繋がりは学修面だけでなく、将来像を明確にする機会も与えてくれました。法律事務所や裁判所、検察庁の見学、毎年の創立式典等の行事を通じ、実務家として活躍される先輩方から直接お話を伺うことができます。仕事の具体的な内容ややりがいを感じること、法曹界をはじめ様々な業界で働く自分の将来像を意識することができると思います。

皆さんと、真法会の一員として会うことのできる日を心より楽しみにしています。

#### 岡部聖希士(法学部法律学科卒業)

慶應義塾大学法科大学院(進学先)  
 他、  
 中央大学法科大学院(全免)

## 合格!

正直なところ、法曹を目指す学生にとって、大学生活は勉強中心の味気ない日々になりがちだと思います。そうした中で、私にとってこの研究室は、学びに向き合う拠点であると同時に、自分の居場所を見つけることのできる大切な空間となりました。充実した学修環境のもと、ゼミでの議論や論文の添削指導を通じて、法的思考力や論理的な文章構成力を着実に磨くことができました。

また、同じ目標を志す仲間と切磋琢磨しながら学ぶことで、互いに刺激を受け合い、主体的に学修へ向き合う姿勢も自然と培われたと感じています。

そして、この研究室の最たる魅力は「人」とのつながりにあると感じています。スポーツ大会などの行事を通じて交流を深めたり、研究室で仲間と何気ない会話を交わしたりする日常の時間は、大学生活をより豊かなものにしてくれました。学修と人との関わり、その両方がそろった環境こそが、この研究室の大きな魅力です。興味のある方は、ぜひ一度この研究室の門を叩いてみてください。皆さんと共に学べる日を楽しみにしています。

# 実務家からのメッセージ



## 01 弁護士

私は現在、登録3年目の弁護士として、金融法務、企業法務を中心に、刑事事件や一般民事も含め、幅広い分野の業務に携わっています。

真法会研究室には、体系的な学習カリキュラムと充実した学習環境が整えられています。これらは、OBOGが後進の育成を願い、長年にわたり築き上げてきたものです。私自身、真法会研究室の環境に支えられて司法試験を突破することができた一人であり、今度は後輩となる皆さんの学びを支える側として、この伝統の一端を担っていきたくと考えています。また、同様の思いを抱くOBOGが数多く研究室に関わり、充実した学習環境のもとで研鑽を積むことができるだけでなく、学生のうちから実務家と接する機会にも恵まれ、自身の進路や将来について深く考えることができる点も、真法会研究室の大きな魅力です。

同じ志を持つ仲間と切磋琢磨する経験は、人を大きく成長させてくれます。皆さんの大学生生活、真法会研究室において実り多いものとなることを心より願っています。

私は現在、弁護士2年目として、不動産や相続案件を中心に実務に携わっています。依頼者にとって身近で大切な問題に日々向き合い、その権利利益を守ることに責任とやりがいを感じています。

真法会研究室の魅力は、同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨できることにあります。受験勉強を通じて築かれたつながりはとても強く、私自身、真法会で出会った仲間には今でも本当に助けられています。困ったときに相談でき、頑張っている姿に刺激を受け、自分も前に進もうと思える存在がいることは、実務に出た今、改めて大きな財産だと感じます。

真法会研究室は、司法試験合格を目指す場であると同時に、その先の人生を支える仲間と出会える場所です。みなさまが真法会研究室で充実した学生生活を送れますよう、祈念しております。

## 02 検察官

検察官の仕事は、法と証拠に基づいて、刑事事件の事案の真相を明らかにし、真に罰すべきものを起訴し、その者の犯した罪に見合った刑罰が科されるよう裁判を導いていくことです。

この仕事は、被疑者や被害者の人生に大きな影響を与えることになる、非常に責任の大きな仕事です。ときには凄惨な事件と向き合わなければならないことも少なくありません。そんなときに支えとなるのは、真法会研究室でともに学び、過ごした同期の存在です。

同じ目標に向かって大学時代を過ごした同期が同僚となり、一生ものの仲間になることは、決して珍しいことではありません。

皆様が真法会研究室で素敵な仲間と充実した日々を過ごし、素晴らしい未来を築かれることを期待しております。

## 03 裁判官

私は地方の小規模な裁判所で、刑事裁判官として働いています。刑事裁判官といっても、メインの仕事が刑事事件というだけで、債権執行や民事保全などの民事事件も担当します。

裁判官という仕事の大きな特徴は、自分がした判断が現実にも実現するところだと思います。間違った判断でも実現します。その職責はとても重く、常に緊張して仕事をしていますが、大きなやりがいでもあります。そして、日々、様々な判断をする中で、真法会研究室で学んだ多様な価値観が役に立っていると感じています。

真法会研究室は、様々な人と出会い、多様な考えに触れることのできる場だと思っています。真法会研究室での生活は、楽しいものばかりではないかもしれませんが、頑張ったからといって、全員が司法試験に合格するわけでもありません。合格した後も、勉強は続きます。しかし、皆さんの真法会研究室での経験が、その後の人生のどこかの場面で役立つときが来ると確信しています。

## 真法会独自の支援

真法会研究室の室員は、真法会のカリキュラムゼミを活用して学びを深めています。OB,OGのチューターによる独自の講義レジュメや論証レジュメを用いたカリキュラムゼミは、室員の学習の要です。

ときに休憩時間には、チューターの先輩を交えての雑談で盛り上がることも。

ゼミが終わってからも、講義の要点を書き込んだレジュメは学部試験や自己学習の際にとっても役立ちます。

さらに、学習費(年間行事や合宿、カリキュラムゼミ費用)や施設利用費(研究室内のコピー機はコンビニやスーパーなどのお店に置いてあるコピー代よりも安く利用できる他、学生研究フロア維持管理費)の一部援助も行っています。

このように、独自の支援によって室員がより良い学習ができる環境が整っています。

## 実業友の会

真法会研究室では法曹志望者への支援はもちろんのこと、公務員や民間企業を志望する室員への支援も行っています。

実業友の会とは、主に公務員や民間企業などで活躍する真法会研究室の卒業生により運営される団体です。

実業友の会では、公務員や民間企業への就職を志す室員に対し、多方面で活躍している先輩方による進路指導や、エントリーシートへの添削、模擬面接などの就職支援を行っています。

## 民間企業に就職された先輩のお話

真法会は、勉学に励みながら自らの将来についてじっくりと考えることができる場所です。「社会に出て自分は何がしたいのか」をフラットに考えられる環境があり、それを応援してくれる室員や先輩方に囲まれている点は非常に恵まれていると感じます。

法曹を目指す人はもちろん他の選択肢を考えている人も、自分がこれから社会でどのような役割を担い、どんな価値を生み出していきたいのかについて、周囲からの刺激を受けながら真剣に向き合うことができます。特に「実業友の会」を通じて、民間企業や公務員として活躍されているOBOGの方々と直接お話しできる機会は、私の視野を大きく広げてくれました。全体での会だけでなく、個別の相談や何気ないお話にも親身に時間を割いてくださり、社会人の生の声を聞くことが出来ました。

卒業後も続くこの「縦と横のつながり」の中で、一つの型にはまらず、納得のいく答えを自分自身で見つけ出したいという人にぜひ選んでほしい研究室です。

## 入室試験要項

応募資格 本学1・2年生(学部学科不問)

募集人員 1・2年生(計20人程度)

受験料 1,000円

一次試験… 4月5日(日)

▶ 論文試験、適性試験

二次試験… 4月12日(日)

▶ 面接試験

～新歓のご案内～

説明会 対面新歓

3月30日、4月3日、4日 4月1日、3～4日  
(20:00～21:00) (10:00～17:00)

@オンライン @5階ラウンジ

※3日は一般論文  
書き方講座を行います

どちらもぜひお越しください!

※本年度の入室試験は一次試験、二次試験どちらも**対面**で実施いたします。  
※受験される方は、4月12日(日)は 9:00～21:00の時間帯を空けておくようになしてください。  
※詳しくは別紙募集要項をご参照ください。

詳しい試験情報、応募方法については  
真法会の公式ホームページ又は公式X(旧Twitter)をご参照ください。  
その他、公式Xや公式Instagram(@shinpou2026)では真法会研究室の新歓情報や真法会研究室の魅力が伝わる情報を随時発信中です。



公式X



公式instagram

## あとかき

## MEMO

このパンフレットを手にして読んでいるみなさんは、司法試験や法曹という職業に少なからず興味があるということでしょう。

しかし、そうした目標を達成するためにはどうすればいいのかわからず、漠然とした不安を感じている方もいるのではないのでしょうか。

真法会研究室には、学年を超えて日々語り合い、お互いを高めあうことのできる仲間がいます。ゼミはもちろん、自学自習という面においても肩を並べて共に学ぶことのできる仲間の存在は大きな力となります。

また、真法会研究室では実務家の先生方と交流し、その仕事を間近で見る機会も数多くあります。実務を知ること、自身の将来像をより明確にし、学習意欲を高めていく上で不可欠です。机に向かうだけでなく、在学中から法律実務に触れることができるのは、多くの先輩法律家との強いつながりを持つ真法会研究室の特色のひとつです。

真法会研究室の最大の特徴である強い「縦のつながり」と「横のつながり」はみなさんの法曹への道筋を照らす助けとなり、また一生の財産となるでしょう。

みなさんが真法会研究室の一員となり、ともに切磋琢磨する日が来ることを室員一同心待ちにしています。

Thank you for reading!